

## 「愛顔(えがお)あふれる愛媛づくり」

令和2年度「知事とみんなの愛顔(えがお)でトーク」知事講話

開催日時：2.9.3(木)

開催場所：愛媛大学

皆さん、おはようございます。今日は大学生との「愛顔でトーク」ということで、ご出席をいただきましてありがとうございます。それぞれがコロナ対策で不自由な生活が続いていると思いますけれども、まあ全国的にも感染者がまだ続いています。その中で愛媛県は散発的な陽性患者はいらっしゃいましたけれども、ここ10日間はゼロということが続いておまして、全国的に見ればなんとか踏みとどまっているという状況にあります。

### 【新型コロナウイルス感染症対応】

#### (感染の経緯・対応状況)

2月にダイヤモンド・プリンセス号からの離船の方々が帰県されてから本格的な対応が始まりましたけれども、この対応に当たりましては最初は手探りでありましたが、一つのパターンを学習をしながら対応策が積み上がってきています。東京のように感染経路が不明なケースが毎日どんどん出てくると、これはもう市中感染の段階に入りますから、抑えきるといのはなかなか難しくなりますが、それ以前に丁寧に対応すれば何とか乗り越えられるのではないかとすることを基本としてきました。

ということは、まず具合が悪いという方がいらっしゃった場合、かかりつけ医の先生のところに行く、あるいは相談センターのほうに連絡がある。そこから必要と判断されたものは全部検査をするというのが基本で、そして速やかにこの段階ではお医者さんや保健師さんが頑張ってくれます。検体を取ったり、そしてPCRの検査の場所に運んだり、そして検査が実施されたり、そしてこの保健師さんが一人一人「どんな行動をされてましたか。」という調査をいたします。その調査の中から、濃厚接触者の存在が浮かび上がってくる。あるいは濃厚接触者には至らないけれども、多少の接触があったという方も分かってくる。

そして、愛媛県ではまず調査に重きを置いてその日のうちに検体採取して、翌日にはその周辺の方々の対応を開始するというので、我々はこれを囲い込み戦略と言っています。この行動歴が把握できて囲い込みが完了すれば、その方々は2週間念のため自宅待機、健康観察をしていただきますから、たとえ後になってこの中から陽性が確認されても、もう自宅待機でじっとしていただきますから広がることはないということになりますので、療養対策をすれば事足りるというようなことで、早期の囲い込み、そして健康観察が終わったら事例毎の封じ込めっていうことで感染拡大を抑えるということを徹底してきました。

#### (医療提供体制)

より重要なのは重症化した時に、あるいは症状が出た時にどこにお迎えするかということが重要です。実は3月の段階では実際稼働できる病床、コロナ対応の病床は、スタート時点では70床ぐらいしかありませんでした。今病院の関係者といろいろと調整をして愛媛県内では重症の方、人工呼吸器をつけたりエクモという機械をつけたり、あるいは集中治

療室、コロナのための重症用の病床が今現在約 33 床用意できました。そこに至らない中等症という症状の方については、熱がちょっと高いとかこういう方々の病床が 196 床。そして症状が出ない、このコロナというのは難敵で症状がない場合があります。症状がない方についてはホテルを借り切ってそちらで 2 週間を過ごしていただくということで、こちらの部屋が全部で 117 室、部屋ですねこれは。ですから合計すると 346 の構えが現段階ではできています。まあ 70 が 346 ですからかなり増やす対応が取れてまいりました。これまでクラスターと呼ばれる 1 つの場所で大勢がというケースもありましたけれども、愛媛県内では一番入院患者が多い時期が 28 名でありましたんで、まあそれに対して 346 でありますから、まあかなり余裕を持った構えというふうなことになってまいりました。

### （感染回避行動）

ただこれから秋になりますと、インフルエンザの流行も視野に入れていかなければならないんで、まあこれとどう向き合っていくか、今お医者さんたちと相談をして、例えば愛媛県の五、六カ所にドライブスルーで検体採取ができるような場所を設置できないかとか、いろんな検討をしている最中でありまして。落ち着いている今だからこそ次なる一手を打つというのが行政の役割でもありますんで、まあ万全の体制を組みますんで、しかし一番大きな対策は一人一人の生活上の取組みになります。愛媛県では、県下の市や町にも同じ言葉で呼びかけていただきたいということで、感染回避行動というお願いをしています。

3 つあります。1 つ目はうつらないように自己防衛してください。2 つ目はうつさないように周りに配慮してください。そして 3 つ目は習慣化しよう、3 密回避。密室・密接・密集、こういったところでうつりやすい環境が生まれますんで、こうしたことを勿論一つ一つうつらないようにするためには、マスクをつけるとか、手洗いするとか、うがいをするとか本当に一人一人が気を付ければできることばかりになりますんで、この 3 つをしっかりとやれば問題ない、乗り越えられるというふうに思ってます。

### （個人情報への配慮）

そしてもう一つ苦慮しているのが、人間の好奇心との闘いでありまして。SNS、インターネットの普及によって誰しもがネット上でつながるようになりました。しかしここには有用な情報もあれば、あるいは伝達もできる仕組みなんですけども、使い方を間違えると社会にマイナス面ももたらします。例えば陽性者が出ますと、「どこに行った。」、「誰と会った。」、「どこから来たんだ。」、「なぜうつったんだ。」、もう根掘り葉掘りあることないこと、どんどんどんどん飛び交い始めるんですね。でもよく考えてみると、この無責任なやりとりが何をもたらすか。感染した立場にちょっと立ってもらいたいですね。誰しもがうつる可能性がありますから。感染する立場の方は何を思うか、それを見て、怖い、恐怖感です。自分だけならまだしも家族にも影響します。職場にも影響します。行った先のお店にも影響します。先ほどの囲い込みがしっかりとできれば拡大する可能性はないのですから、そこまで根掘り葉掘りやる意味がありません。そしてさらに、この恐怖感がひどくなるともっと深刻な事態がおこります。「いやあもうインターネットで SNS であんなこと言われたら、皆に迷惑かかる、家族に被害が及びそうだから、何にも言いません。」「調査には協力できません。」。調査に協力してくれなかったら追っかけようがない、囲い込みもできなくなる。すなわち感染拡大につながると。これが恐ろしいポイントでございます。だから確信犯的にそうやって探ろうとする人、あるいは断片的な情報でどんどん不安をあおろう

とする人、残念ながら世の中にはいます。決して皆さん一人一人がそうした思惑に惑わされないようにしていただけたらなあということをお願い申し上げたいと思います。

### (アフターコロナ)

さてこのコロナ、まだまだ闘いは続きます。ワクチンが開発されるまでは散発的な人の移動もありますから感染はあると思いますので、しっかりと丁寧に抑え込んでいかなければなりませんけれども、ただこれが落ち着いた後に、とてつもない変化が皆さんには待ってると思います。一つにはもう身近なところで、例えば、3年生がいるかどうか分かりませんが、就活が全然変わってきましたよね。人々の価値観あるいは生活スタイルあるいは企業の活動全てがコロナ社会へ対応したものに切り替わっていく可能性があります。

先日ニュースを見ていたら、業種によってできるできないはあると思いますが、ITの大手の会社の部長か取締役かがテレビに出てきて、「全社挙げてテレワークを実施した。」と。「不安はあったけれども生産性は落ちないということが分かった。これを受けて一体東京のど真ん中にお金をかけて大きな本社ビルを持つ必要があるのだろうか。全ての業務を東京に集中してやる必要があるのだろうか。今考えなければいけないと思っています。」と、こんなコメントが出ていました。

ということは、働き方のスタイルも変わるでしょうし、逆に地方から見れば東京に集中している機能を地方でもいいじゃないですか、できますよ、と言って引っ張ってくるチャンスでもあるというふうにも思っています。

まあそんなコロナ社会のもたらす変化というものは、皆さん社会に出て向き合っていく大きなテーマになってくると思いますし、またもう一つは日本の社会が少子高齢化で人口が減り始めています、初めてのことであります。二つのこれは大きな変動要因になります。

一つは人口が増えていく、若い人が多いというもとにつくられてきた日本の社会保障制度が根本から崩れるということになります。もう一つは、人口が減るということは、国内のマーケット、市場が縮小していくということ。となると、皆さんの時代は今迄以上に地方にいても海外を視野に入れた経済活動というのが常態化していくということになるかと思っています。僕は昔商社というところに勤めてましたので、むしろどんどん行ってたんですけれども、それは特別な会社が行くということで済んでいたんですが、日常化していくのかなというふうな感じがしてなりません。むしろ、ネット社会でツールの活用をやってきた皆さんならではの発想が必要になってくる可能性がありますので、そういう意味でまた大いに提案等々に期待をさせていただきたいと思います。

今日は限られた時間ですが、僕のほうからの話はこれぐらいにして、後は質問等を通じてやりとりができたらと思っています。最後までよろしく願いいたします。ありがとうございました。